

中学校 国語

説明的文章における読解力を高める指導法の研究
－文章の内容について分かりやすくプレゼンテーションをする言語活動を通して－

階上町立道仏中学校 教諭 元澤 朋子

要 旨

本研究は、中学校国語科の説明的文章の学習において、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の内容についてプレゼンテーションをするという言語活動を行うことで、読解力を高めることを目指したものである。文章の構成や展開を踏まえてプレゼンテーションのフリップの数を吟味することで、文章の構成や展開をとらえる力が高まった。また、意味段落の働きと要点を考えながらフリップの内容を吟味することで、要点をとらえ要旨をまとめる力も高まった。

キーワード：中学校 国語 読むこと 説明的文章 プレゼンテーション 活用

I 主題設定の理由

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（中央教育審議会答申 平成20年1月）において、「各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある」とし、「各教科での習得や活用と総合的な学習の時間を中心とした探究は、決して一つの方向で進むだけではなく、例えば、知識・技能の活用や探究がその習得を促進するなど、相互に関連し合って力を伸ばしていくものである」とことが述べられている。

このことを踏まえて、国語科では、これまで指導計画の作成と内容の取扱いに示していた「言語活動例」を内容の(2)に位置付けた。これは、各学年の内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを一層重視したためである。

そこで、本研究においては、説明的文章における読解力を高める指導法の一考察として、教材の文章の内容について分かりやすく説明するという言語活動を設定した。説明的文章を読んで分かったことについてプレゼンテーションを行って相手に伝えようとするとき、文章の構成や展開、要点や要旨を吟味することになり、これまで習得した知識・技能が活用され、更に習得が促進されることを実践を通して検証していきたいと考え、この主題を設定した。

II 研究目標

説明的文章の学習において、文章の構成や展開をとらえる力及び要点をとらえ要旨をまとめる力を高めるために、文章の内容について分かりやすくプレゼンテーションをするという言語活動を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用してフリップの数や内容を吟味することが有効であることを、実践を通して明らかにする。

III 研究仮説

説明的文章の学習において、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の内容について分かりやすくプレゼンテーションをするために次のような活動を行うことで、読解力が高まるだろう。

- ・文章の構成や展開を踏まえて、プレゼンテーションのフリップの数を吟味する。
- ・意味段落の働きと要点を考えながら、フリップの内容を吟味する。

IV 研究の実際とその考察

1 研究内容

(1) プレゼンテーションに活用する「読むこと」の能力を明らかにする

ア プレゼンテーションのフリップと発表原稿の試作

説明的文章の内容について分かりやすくプレゼンテーションをするという言語活動と「読むこと」の能力の関係を明らかにするために、既習の説明的文章「ちょっと立ち止まって」（光村図書 国語1 平成17年度版 筆者 桑原茂夫）で、実際にプレゼンテーションのフリップと発表原稿を試作した。

その結果、以下の二点が明らかになった。

- ・意味段落をどのようにとらえるかが、フリップの枚数に反映される。
- ・フリップの大きさには限りがあるため、要点を簡潔にまとめる必要がある。

イ フリップの条件設定

プレゼンテーションのフリップと発表原稿を試作して明らかになったことから、文章の構成や展開をとらえる力と要点をとらえ要旨をまとめる力を学習活動に活用させることを前提に、フリップの条件を設定した。また、第1学年の授業なので、文章の内容について発展的に調べさせたり、発表のために文章の展開を変えさせたりせず、あくまでも文章の構成・展開や内容に即して説明させることにした。

ウ 検証授業での活用

「ちょっと立ち止まって」のプレゼンテーションを検証授業の最初の段階で生徒に見せる（プレゼンテーションソフトを使用）ことで、既習の知識・技能を確認するとともに、プレゼンテーションのイメージや目的を伝えることにした。それにより、国語の学習で習得した文章の構成と展開をとらえる力や要点をとらえ要旨をまとめる力は、このような発表活動で生かされることを確認させられると考えた。



図1 「ちょっと立ち止まって」のプレゼンテーション

(2) 文章の構成や展開をとらえる力を高めるための工夫

ア フリップの条件設定

プレゼンテーションのフリップについて、以下の二つの条件を設定した。

- ・一つの意味段落につきフリップを一枚作成する。
- ・文章の三部構成（前文・本文・後文）をとらえ、フリップの色分けをして区別する。

これらの条件により、発表の際にシートを黒板にはって視覚的に構成をとらえられるように工夫した。

イ ワークシートの工夫

文章の構成、意味段落、重要語句が一覧になって見え、学習後の意見の変容も記録できるようにワークシートを工夫した（図2）。

後文	本文				前文	構造	段落	[図解の文]
	本文4	本文3	本文2	本文1				
18 - 17	○ - ○	○ - ○	16 - 13	12 - 5	4 - 1	導入	展開	結論
<p>①～④</p> <p>「あれ、環境問題...」</p> <p>「環境問題って、地球温暖化のことだよ。地球温暖化は、温室効果ガスが増えるから起こるんだよ。温室効果ガスが増えると、地球の気温が上がるんだよ。気温が上がると、氷が溶けて、海面上昇するんだよ。海面上昇すると、島国や低地が水没するんだよ。環境問題は、地球の未来を脅かしているんだよ。環境問題を解決するために、我们每个人が協力して取り組む必要があるんだよ。」</p>	「○～○」	「○～○」	<p>①～④</p> <p>「例：環境問題」</p> <p>「環境問題は、地球温暖化のことだよ。地球温暖化は、温室効果ガスが増えるから起こるんだよ。温室効果ガスが増えると、地球の気温が上がるんだよ。気温が上がると、氷が溶けて、海面上昇するんだよ。海面上昇すると、島国や低地が水没するんだよ。環境問題は、地球の未来を脅かしているんだよ。環境問題を解決するために、我们每个人が協力して取り組む必要があるんだよ。」</p>	<p>⑤～⑧</p> <p>「説明：従来の考え方」</p> <p>「従来の考え方では、環境問題は、地球温暖化のことだよ。地球温暖化は、温室効果ガスが増えるから起こるんだよ。温室効果ガスが増えると、地球の気温が上がるんだよ。気温が上がると、氷が溶けて、海面上昇するんだよ。海面上昇すると、島国や低地が水没するんだよ。環境問題は、地球の未来を脅かしているんだよ。環境問題を解決するために、我们每个人が協力して取り組む必要があるんだよ。」</p>	<p>①～④</p> <p>「導入：微生物」</p> <p>「微生物は、私達の生活に欠かせない存在だよ。微生物は、私達の身の回りにたくさんいるんだよ。微生物は、私達の健康を維持するために役立つんだよ。微生物は、私達の生活を豊かにするために役立つんだよ。微生物は、私達の未来を豊かにするために役立つんだよ。」</p>	<p>①～④</p> <p>「例：発酵」</p> <p>「発酵は、微生物が糖質を分解してアルコールや乳酸を生成する過程だよ。発酵は、私達の生活を豊かにするために役立つんだよ。発酵は、私達の健康を維持するために役立つんだよ。発酵は、私達の未来を豊かにするために役立つんだよ。」</p>	<p>①～④</p> <p>「例：発酵」</p> <p>「発酵は、微生物が糖質を分解してアルコールや乳酸を生成する過程だよ。発酵は、私達の生活を豊かにするために役立つんだよ。発酵は、私達の健康を維持するために役立つんだよ。発酵は、私達の未来を豊かにするために役立つんだよ。」</p>	<p>①～④</p> <p>「例：発酵」</p> <p>「発酵は、微生物が糖質を分解してアルコールや乳酸を生成する過程だよ。発酵は、私達の生活を豊かにするために役立つんだよ。発酵は、私達の健康を維持するために役立つんだよ。発酵は、私達の未来を豊かにするために役立つんだよ。」</p>
後文	本文	本文	本文	本文	前文	授業の感想・次の目標		

図2 ワークシートB（グループでの作成用）

(3) 文章の要点をとらえ要旨をまとめる力を高めるための工夫

ア フリップの条件設定

文章の内容を要約することについては、本研究の検証授業が中学生になって初めての学習場面になる。そこで、文章の要点をとらえ要旨をまとめる力を高めるために、プレゼンテーションのフリップの内容について、以下の二つの条件を設定した(図3)。

- ・それぞれのフリップに、意味段落を形成する形式段落の番号、意味段落の働き、要点を書く。
- ・要点の中のキーワードだと思ふ語句は赤字で表記する。

これらの条件を設定することで、意味段落の働きを踏まえて要点をまとめることができると考えた。また、その要点を基に発表原稿を書くことで、自然に要旨をまとめることができると考えた。

イ ワークシートの工夫

フリップにまとめた内容を基に、中心段落・中心文・キーワードを確認してから要約し発表原稿を書くというように、段階的に作業を進められるようワークシートを工夫した(図4)。

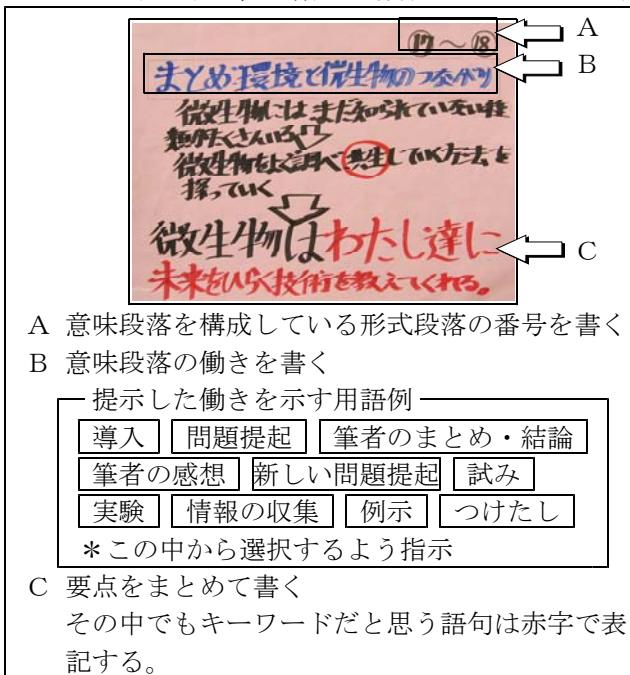


図3 フリップの記入の仕方

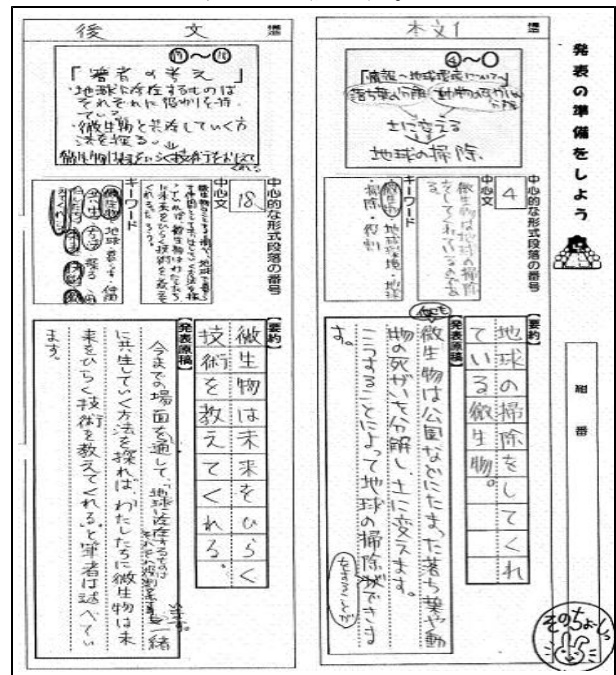


図4 ワークシートC(要約用)

2 検証の方法

(1) 事前・事後テスト

文章の構成や展開をとらえる力及び要点をとらえ要旨をまとめる力の二点について調べるために、未習の説明的文章「クジラたちの声」の文章を活用して、事前・事後テストを行った。事前テストと事後テストは同一問題で行い、正答率の変化と記述内容の変化を分析した。

(2) ワークシート

生徒の思考の変容を見るために、単元の学習の各段階において、自分の考えをワークシートA～Dに書かせた。そして、そのワークシートを単位時間ごとに回収し、分析した。

(3) 検証授業後のアンケート

検証授業後、次の点についてアンケート調査を行った。

- ・構成の理解、段落の働きの理解、要約することの項目についての自己評価(四段階)。
- ・「ちょっと立ち止まって」の学習と比べて分かりやすい、難しいと感じた点。
- ・「ちょっと立ち止まって」の学習と本研究「未来をひらく微生物」の学習それぞれについての、学習意欲の自己評価(四段階)とその理由。

3 検証授業の実際

(1) 教材名 「未来をひらく微生物」(光村図書 国語1 平成17年度版 筆者 大島泰郎)

(2) 対象 階上町立道仏中学校 第1学年45名(A組:22名 B組:23名)

(3) 指導計画

時	学習のねらい	主な学習活動
	◎事前テスト (10月下旬)	
1	既習事項の確認 学習の内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちょっと立ち止まって」を復習のため通読し、学習した内容を確認する。 ・「ちょっと立ち止まって」のプレゼンテーションを見て、今後の学習活動について理解する。 ・「未来をひらく微生物」を通読する。
2	個人でのプレゼンテーション作成 【ワークシートA】	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開をとらえながら、プレゼンテーションの原案を考える。 ○構成をとらえ、フリップの枚数を吟味する。 ○フリップにまとめる要点や内容を吟味する。
3		
4	グループでのプレゼンテーション作成 【ワークシートB】	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で考えたプレゼンテーションの案をグループで話し合い、まとめる。 ○文章の構成や展開について話し合う。 ○フリップにまとめる内容について話し合う。
5		
6	発表原稿の作成 【ワークシートC】	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落ごとに担当を決めて本文を要約し、発表原稿を作る。
7	プレゼンテーションの比較検討 【ワークシートD】	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのグループがプレゼンテーションを発表し、それについて全員で比較検討する。
8	学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会での話し合いを基に、「未来をひらく微生物」の段落構成、段落の働き、要約を確認する。
	◎事後テスト (11月中旬)	

4 考察

(1) 文章の構成や展開をとらえる力の変容

事前・事後テストにおける文章の構成や展開をとらえる問題の正答率を比較すると、図5のようになり、文章の構成や展開をとらえる力の向上が見られた。

フリップを作り、それを並べながら構成や展開を考える活動をしたことで、文章全体の構成を視覚的にとらえられ、理解が容易になり、かつ深まったものと考えられる。

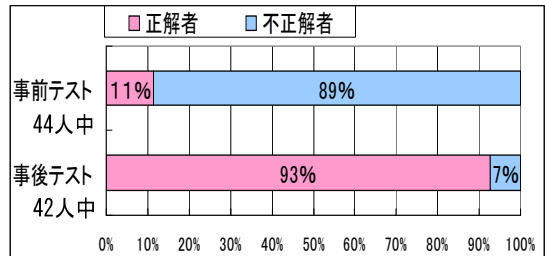


図5 文章の構成や展開をとらえる問題の正答率

《文章の構成や展開をとらえることについての生徒の感想》

- ・文章全体の構成が目に見えて分かりやすかった。
- ・フリップで目に見える形だったので、言葉だけの説明の時よりも早く段落分けを理解することができた。他の班との違いや、どうしてそのように構成をとらえたのかも分かった。
- ・それぞれのまとまりの、一番上にくるフリップを見つけてることが大切だと思った。

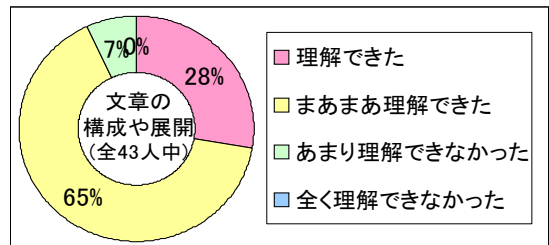


図6 事後アンケートにおける文章の構成や展開の理解についての自己評価

また、各グループのフリップを並べて文章の構成や展開のとらえ方を比較検討する中で、最も討論が活発になったのは、前文・本文・後文それぞれの最も上段にくるフリップに着目した場面だった。生徒たちは、一番上にくるフリップの内容で段落同士の関係を判断し、構成をとらえていた (図7)。



図7 2グループのフリップを並べて比較し話し合った様子

(2) 文章の要点をとらえ要旨をまとめる力の変容

事前・事後テストにおける要点をとらえ要旨をまとめる問題の正答率の比較、及び個人のワークシートと発表フリップの内容の比較から、図8・図9のようになった。このことから、文章の要点をとらえ要旨をまとめる力が向上したものと考えられる。その原因として、フリップごとに段落の働きを明確にして要点をまとめるという活動が有効だったと考えられる。フリップの中に、段落の働きと要点を区別して表記したことで、その働きや用語の意味も区別ができるようになった。さらに、限られたスペースの中で文章の内容をできるだけ分かりやすく提示しよう意識したことで、書かれる内容が精選され、自然に要点が取り出されたと考えられる。

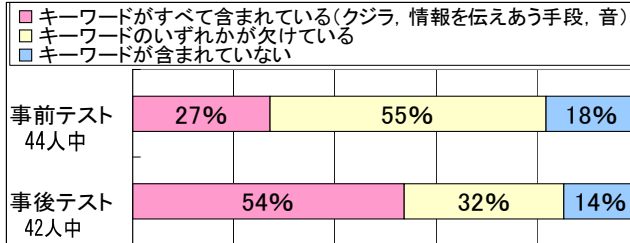


図8 要点をとらえ要旨をまとめる問題の正解者の割合

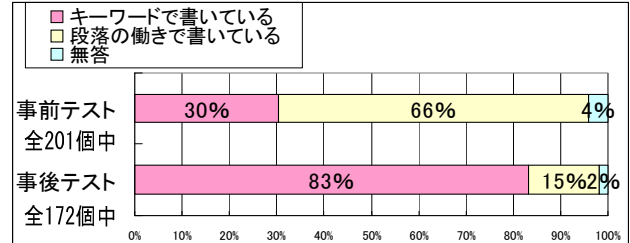


図9 見出しをつける問題の回答傾向の推移

また、本研究では、フリップの内容について班で話し合いをした後、個人で要約するという手順をとったため、班の話し合いの段階でキーワードの取り出しと確認ができていた。そのため、発表原稿の作成の作業において、普段は書き始めるまでに時間のかかる生徒もスムーズに要約を始め、与えられた時間の中で書き上げることができた。また、班の全員が同じキーワードを用いて要約したので、その後の推敲もしやすかった。

要約の作業を難しいものと考え、嫌がる生徒も多い。しかし、段階的に手順を理解させれば、そのスキルを向上させることができると考える。

しかし、事後アンケートの段落の働きの理解についての生徒の感想をみると、意味段落の働きを考える際に、教師が提示した働きを示す用語例(図3)の数が多く、類似していたものもあって、生徒を戸惑わせてしまった。簡潔で、理解と分類のしやすい用語を精選しなければならない。

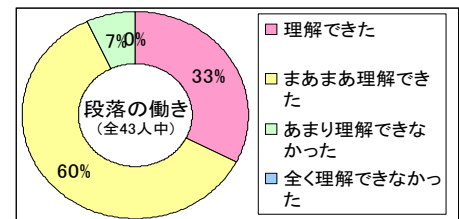


図10 事後アンケートにおける段落の働きの理解についての自己評価

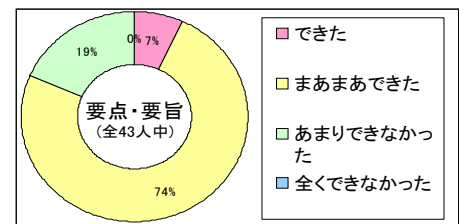


図11 事後アンケートにおける要約することについての自己評価

《段落の働きについての生徒の感想》

- ・フリップにキーワードが抜き出してあったのでまとめやすかった。
- ・フリップにまとめるだけで十分短かったので、要約しやすかった。
- ・班の人と同じような要約が書いて自信が持った。

《要約することについての生徒の感想》

- ・1枚1枚のフリップに段落の働きをつけることで、その意味段落の内容が分かりやすくなった。
- ・フリップが一番上にくる段落で、段落の働きも大きく変わっていた。
- ・段落の働きの言葉選びが難しかった。

(3) 生徒の興味・関心について

検証授業における生徒の学習活動への取組は、とても熱心だった。事後アンケートで学習意欲についての自己評価を見ても、「ちょっと立ち止まって」の学習に比べ、本研究の「未来をひらく微生物」の学習の方が意欲的に取り組めたと回答している生徒が多い(図12)。その理由を見ると、「ちょっと立ち止まって」の学習では挿絵や説明内容におもしろさを感じていたのに対し、「未来をひらく微生物」ではプレゼンテーションをするという言語活動の方に生徒の興味・関心が向いていた。

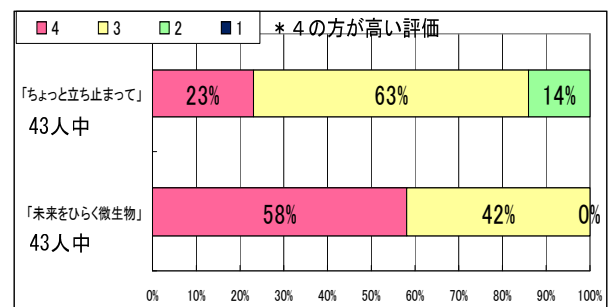


図12 事後アンケートにおける学習に対する関心意欲についての自己評価

分かりやすくプレゼンテーションをするという目的を設定して読ませたことで、文章の内容をより正確に読み取ろうという意欲を喚起できたと考える。自分たちの班と他の班のプレゼンテーションの相違点に着目し、再考や話し合いをして正解を導こうとしていた。このように意欲をもって主体的に学ぶことで、更に読解力が高まるのではないだろうか。

知識・技能を活用する学習を行うためには、目的意識を明確にした言語活動を設定することが大切だと強く考えさせられた。

《検証授業についての生徒の感想》

- ・プレゼンテーションを作っているときはフリップのスペースに大事なところだけまとめるというのが難しかったけれど、出来上がったものを見ると、とても簡単で分かりやすかった。キーワードを使って要約するというこの意味がよく分かった。
- ・文章を読んだだけでは分かりにくいところもあったけれど、プレゼンテーションにすると内容がぎゅっと凝縮されて、意味段落の中の大事なことやキーワードがよく見えた。ほかの班と比べて見ることもできて、納得したり考えが変わったりするところがあった。

V 研究のまとめ

1 文章の構成や展開をとらえる力の向上

事前・事後テストの結果の比較から、文章の構成や展開をとらえる力の向上がみられた。これはフリップを黒板に並べて掲示することで、構成を視覚的にとらえることができたためと考える。

2 文章の要点をとらえ要旨をまとめる力の向上

事前・事後テストの結果の比較、及び個人のワークシートと班のワークシートの内容の比較から、文章の要点をとらえ要旨をまとめる力の向上がみられた。これは、フリップの内容をまとめるという活動を通して意味段落の働きと要点とを区別し、さらにはキーワードを意識して簡潔にまとめることを自然に意識することができたためと考える。

VI 本研究における課題

- ・段落の働きを考える場面で、教師が提示した用語例が多く、類似していたものもあって、生徒を戸惑わせてしまった。用語を精選し、簡潔で、理解と分類のしやすい用語を提示しなければならない。
- ・第2学年の「話すこと・聞くこと」の領域においてプレゼンテーションを学習する。その指導内容と本研究との関連を図らなければならない。また、本研究では「読むこと」の力を高める活動としてプレゼンテーションに取り組んだが、プレゼンテーションのフリップを付せん紙に置き換えれば、「書くこと」の領域の作文指導とも関連させることができるだろう。
- ・職場体験学習の報告会など、学校生活における様々な発表活動においても、発表の構成を考えたり要点をまとめたりする場面でフリップが活用できると考える。本研究の成果を他の領域の学習においても活用していきたい。



図14 付せんをフリップに見立てた作文指導

〈参考文献〉

- 市毛勝雄 1997 『説明文教材の授業改革論』 明治図書
長谷川祥子 2003 『論理的思考力を育てる授業の開発 中学校編』 明治図書
教育と「知の活用力」を考える会 2008 『活用力を育てる国語授業 中学校編』 日本標準
河野庸介 2006 『中学校「読解力」を鍛える説明的文章の新展開』 明治図書
井上一郎 2004 『確かな国語力をつける授業モデル 第2巻「読むこと」編』 明治図書
吉本清久 2004 『要約力を磨く説明文の指導』 明治図書
岩間正則 2008 『中学校国語B問題を授業する - 「活用」の力とはなにか -』 明治図書
有元秀文 2008 『必ず「PISA型読解力」が育つ七つの授業改善 - 「読解表現力」と「クリティカル・リーディング」を育てる方法 -』 明治図書